

令和7年度第2回県央広域振興圏経営懇談会会議録

1 日時

令和7年12月1日（月）14時30分～16時30分

2 場所

岩手県盛岡地区合同庁舎8階大会議室

3 出席者

(1) 県央広域振興圏経営懇談会構成員（12人）

吉田 蘭 構成員、青木 悟 構成員、鈴木 絵美 構成員、坂田 雄平 構成員、
佐々木 祐子 構成員、谷本 真佑 構成員、高橋 一真 構成員、長沼 淳 構成員、
駿河 俊也 構成員、立花 賢生 構成員、村松 直子 構成員、吉野 英岐 構成員

(2) 盛岡広域振興局（10人）

局長 小野寺 宏和、副局長兼経営企画部長 澤田 彰弘、保健福祉環境技監兼県央保健
所長 仲本 光一、県税部長 今野 浩、保健福祉環境部長 日向 秀樹、農政部長 佐々
木 誠二、林務部長 高橋 忠幸、土木部長 戸来 竹佐、盛岡教育事務所長 丸橋 友
之、産業振興室長 小川 信子

4 開会

○ 吉原特命参事兼企画推進課長

本日は、御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。

ただいまから、令和7年度第2回県央広域振興圏経営懇談会を開催します。本日の進行を担当いたします、企画推進課長の吉原と申します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、盛岡広域振興局長の小野寺より挨拶を申し上げます。

5 挨拶

○ 小野寺局長

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃から振興局、それから管内8市町の施策推進に当たりまして、御協力、御支援を賜っておりますこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年度、当振興局では管内市町と連携いたしまして、地元定着や関係人口などを重点に据えて取組を進めてきたほか、管内市町の人口減少対策担当課長会議や各市町の個別の意見交換を通じまして、今後の振興局の取組について検討してきたところでございます。

本日でございますけれども、6月に開催いたしました第1回経営懇談会で御説明した業務方針の進捗状況と、現在検討を進めております来年度重点的に取り組む項目、新たに取り組む項目について御説明申し上げまして、皆さんから御意見を頂戴したいと考えております。

限られた時間でございますけれども、有意義な懇談会になればというふうに思っておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 吉原特命参事兼企画推進課長

本日の会議につきましては、県の審議会等の会議の公開による指針によりまして、公開の扱いとなりますので、御了承をお願いいたします。

本日は、12名の構成員の皆様にご出席いただいております。出席者につきましては、お手元に配付しております出席者名簿のとおりでございますので、これをもって御紹介に代えさせていただきます。また、名簿に記載のとおり、本日は3市町からオブザーバーとして御参加いただいておりますことを申し添えます。

それでは早速議事に入りたいと思います。ここからの進行は、吉野座長をお願いいたします。

○ 吉野座長

皆さんこんにちは。第2回目の県央広域振興圏経営懇談会を始めたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、次第に従いまして議事に入りたいと思います。令和7年度盛岡広域振興局業務方針の進捗状況及び令和8年度に重点的に取り組む項目等について、局の方から御説明をお願いいたします。

6 議事

(1) 議題

令和7年度盛岡広域振興局業務方針進捗状況及び令和8年度に重点的に取り組む項目等について

(2) 説明

○ 澤田副局長

資料1及び2により説明。

(3) 意見交換

○ 吉野座長

ありがとうございました。

資料1と2に基づきまして御説明ありました。委員の皆さんは、それぞれ専門分野があるかとは思いますが、専門分野にこだわらずに自由に御意見いただいて結構というふうに言われておりますので、御自身の専門分野でも構いませんし、それ以外のところでも構いません。

それでは、村松委員から御意見、御提案等をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○ 村松構成員

私の方からは、人材確保のテーマではあるんですが、先日参加させていただきました、7月3日の高校生インターンシップセミナーのことを中心にお話できればと思います。

7月3日に、事例発表という立場で参加させていただいたんですが、その際に、「自社の取組として、まず大きな柱としては、インターンシップでいらっしゃった生徒さ

んに体験していただくという自社のありのままを見せるということのほかに、インターンシップに来た生徒さんからしっかり時間を取って、彼らが普段どういう生活を送っていて、どのように採用活動が進んでいって、学校とかを取り巻く環境はどんなふうになっているのかという話もしっかり聞くようにしました。」ということをお伝えしました。

それと同時に、「採用活動だけにフォーカスするのではなくて、自社の魅力を強みと捉えるものをしっかり発信して、それを伝えていくという日々のこまごまとした努力も続けることは必ず価値があります」ということをお伝えしました。

その中で私が一番思ったのは、36 社の方がワークショップに参加したときの、企業さんそれぞれの工夫が非常に素晴らしいなと思いました。そういった企業さんそれぞれの御努力や工夫をみんなで共有していきたいなというのが、7月3日のセミナーで一番感じたところでありました。また次の機会、次の機会というふうに、各社の工夫や取組が共有されていくと、非常に力になるなと感じました。

採用に関してですけれども、当社の今年度の採用状況を申し上げると、昨年度あまり振るわない状況ではありましたが、今年度のセミナーでいろいろ気づきを頂いたこともありまし、当社の50周年イベントの中で、一般学生も参加できる未来を考えるイベントみたいなものを開催いたしましたところ、そこに参加していただいた学生さんからの応募とか、インターンシップに参加した短大生の方からの応募があり、自社を知ってくれた形での応募が今年は多くございました。給与・休日を第1志望にしない応募を非常にいただけたので、取組に対する手応えを非常に感じた1年となりました。

こういったことを来年度以降も続けていければというふうに思いながら資料を拝見して次第です。

○ 立花構成員

こちらの資料にもありますけれども、自動選別機の進捗状況についてですが、今年ある程度のプロトタイプができたという事で、生産者を募って見せたという事は伺っています。やはり、なかなか高額だという話は出ておりますが、人によっては非常にポジティブに考えている人もいて、導入したいという意思表示もあったそうです。ただ、やはり高額ですので、ある程度大規模なところで導入を始めていけばいいのかなと思っています。これも、何年か時間をかけて精度を上げていくものだと思いますので、うまくいけば他の品目でもどんどん活用できるものと思っていますので、続けていけばいいなと思っています。

暑さについては、来るところまで来たのかなと感じています。りんどうでどういうことが起こっているかというと、種が暑さで未熟なんじゃないかというのがあります。咲く時期が極端に遅れたり、畑の状況も株が持たないという状況です。今年はだめでも来年は何とかなるんじゃないかという話ではないと思うので、暑さ対策については、花だけに限りませんが、今後ちゃんと取り組んでいかなきゃならないところにきていると思っています。自分たちに有利な岩手の気候というのは活かしながら、そこも踏まえてやっていけばいいのかなと感じています。

○ 佐々木農政部長

りんどうの選別機の関係であります、生産者の皆さんや部会の皆さんと一緒に開発しているところでございます。青色品種については、ある程度見えてきているところなんです。青色以外の品種、あるいは安全性能の強化といった課題があるというふうに思っております、その辺の改良等を来年度以降も取り組んでいけたらと思っております。目途がある程度立ってきましたので、補助を入れながらということにはなるかと思いますが、まずは大規模な生産者の方々を対象に入れつつ、我々の目論見としては、将来的に共選（共同選花）の道があるのかなのか、その辺のところを部会の皆さんとお話をしながら進めて参りたいと思っておりますところでございます。

暑さ対策については、りんどうは涼しいところを好み、暑すぎると逆に開花が遅れてしまうという状況なので、暑さにも負けない栽培体系、あるいは品種開発といった取組と一緒に進めていきたいと思っております。引き続き、いろいろ御相談をさせていただきながら取り進めて参りますのでよろしくお願いいたします。

○ 駿河構成員

資料1の2ページ目のところに、「子ども・若者の自殺防止対策」とありますが、岩手県の自殺率は10万人あたり22人と大きいですが、先月、岩手県のホームページに記載されている外郭団体の相談場所に電話をしました。

私は自分で警察や最寄りの機関に電話をできましたが、自殺するような方は、なかなかそういうアクションが取れない人達が多いと思います。できれば、相談場所のところに限らず、伴走型として一緒に解決しませんかという案があってもいいんじゃないかというところがあります。

知事も年頭の挨拶で、2回ぐらい「Well-being」という言葉を使ったと思うんですが、県として本当に自殺率を下げたいと思う意思があるのであれば、そういうところにも徹底してアクションを取れるようなことをしたほうがいいのではないかと個人的には思いました。

もう1点は農業分野で、「銀河のしずく」と「白銀のひかり」の生産量を今後伸ばしていきたいという県の方針ですが、正直に言って「銀河のしずく」おいしいです。県として「銀河のしずく」をどんどんアピールした方がいいと思います。生産量は県全体の7割のことですが、とにかく量を作らないと全国に太刀打ちできないと思うので、消費者目線で販路の拡大を目指していけるような施策をした方がいいのかなと思います。

○ 日向保健福祉環境部長

自殺対策につきましては、色々な方々の御協力をいただいて取組を進めております。民間団体の方々も、電話相談であったり、あるいはSNSを使った相談ということをやられているところもありますが、その方々のところへ直接行って、話を聞いて、次につなげてというところまでやっている団体は、ほぼないと思います。

どうしてもひっ迫したような場合は、まず警察に電話をしていただきますと、保健所の方に緊急事態だということで連絡が来ることもあります。あるいは公的機関として、「精神

保健福祉センター」が専門家を配置して電話相談を設けております。

どこに電話をしたらいいのか、なかなか分かりづらいとは思いますが、様々なホームページなどにも公開をして、相談窓口の多様化や専門性の部分についても工夫しながら、対応していきたいと思っています。

○ 佐々木農政部長

「銀河のしずく」で申しますと、盛岡管内は令和7年度で約4,600ヘクタール、全県では約6,300ヘクタールくらいというところで、7割ぐらいは盛岡管内で生産しているという状況です。「銀河のしずく」については、生産者の皆様からそうですし、実際に食べた方々からの評価もよく、全県的に増やしていきたい状況です。「銀河のしずく」を選んで食べてもらえることが大事かと思しますので、振興局でPRできるものと全県的にPRできるものいろいろあるかと思えます。引き続きいろいろ御意見等を伺いながら、農林水産部と連携して消費拡大や販路開拓に取り組んでいきたいと思っております。

「白銀のひかり」は、今年度から本格的な栽培が始まって、管内約60ヘクタールになっております。全県で約110ヘクタールぐらいで、管内では、特に八幡平市での栽培が多い状況になっています。来年の作付意欲が大きくなっているのも、農協さんからの聞き取りによると、面積を倍ぐらいに持っていきたいというようなお話を伺っています。こちらの方も、県として後押ししていきたいと思っております。

きめ細やかな対策をしながら、全県一の地位を維持しつつ県産米の販売拡大につなげていきたいと思っています。

○ 長沼構成員

私の方からは、資料2の11ページの教育旅行についてコメントしたいと思っております。教育旅行の一番下の欄のところで、「教育旅行客の入込状況は、校種・発地ともコロナ禍前に戻り」とありますけども、これは残念ながら毎年減っているということでございます。

今まで遠方に行っていた学校が、コロナ禍で行けなくなって、近隣県で教育旅行を行った結果、学校数や人数が増えたという「コロナ特需」がありましたが、コロナ禍が明けると元のところに戻っていくという状況でございます。ただその中でも、コロナ禍をきっかけに岩手にずっと来ていただいているという学校が、数少ないかと思いますが何校かあるはずですよ。逆に言うと、コロナ禍をきっかけに岩手に方面変更をして、引き続き来ていただいている学校の方に、「岩手に来ていただいているのは何に魅力を感じているのか」を伺うと、教育旅行における今後の岩手のセールスポイントが明確になってくるのかなと考えていました。

教育旅行の誘致は、岩手県観光協会が主に担務しているということは理解しておりますけれども、行政の方でも、岩手の教育旅行における強みというものを学校の先生から伺って、リサーチしていただいて、岩手の強みを把握していただければ幸いです。

○ 小川産業振興室長

コロナ禍中の教育旅行は、どちらかというと県内への需要がありましたが、現在は元の首都圏、関西に戻っているというような状況でございます。来年度に向けて、北海道や首都圏、北関東を中心にプロモーションをしているところですが、岩手県観光協会主催の説明会に行ったときには、個別にエージェントや学校を訪問しまして、岩手・盛岡に教育旅行で来てくださいということをお願いしておりました。盛岡は街歩きができることや、盛岡近隣に教育旅行で訪問できる施設もあることから、関心を寄せていただけるエージェントや学校もありますので、引き続き盛岡の強みを発信、プロモーションしていきたいと思います。

○ 小野寺局長

長沼委員さんがおっしゃった趣旨は、その通りだと思います。強みを深掘りしていくことがすごく大事だと思います。

○ 吉野座長

長沼委員さんは、どこが一番強みとして訴えるといいというのはありますか。

○ 長沼構成員

岩手県のいいところは、宿泊施設が素晴らしいということと、先ほどから話題にあがっている御飯がおいしいということです。

弱点としては、移動に時間がかかると昔から言われていますが、盛岡を中心としたコンパクトな自主研修も意外と充実しているというお話を聞いておりまして、他県のように1点豪華主義ではなく、総合力で岩手ということなのかなと私は勝手に思っておりました。

○ 吉野座長

小岩井農場さんとしては、何かPRされていますか。

○ 長沼構成員

我々も観光協会さんと連携して、様々な説明会に出させていただいております。

○ 吉野座長

その時に、ここはオススメというものがありますか。

○ 長沼構成員

他には類のない農場ということで、生産現場を実際に案内できるバスツアーや、手づくり村で地場産の体験ができるということと、広大な農場を近場で見学できるという案内をすると、若干ではありますが説得力があるかなと思っておりました。

○ 高橋構成員

資料2の16ページで「IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし…」の令和8年度の具体的な事業内容について、「スパルタキャンプ卒業生等と地場企業のマッチングイベントを開催」というところですが、近隣ですと、八幡平市と盛岡市の短期集中型プログラミング

合宿のスパルタキャンプを弊社の方で担当させていただいております。スパルタキャンプに参加された方は、県内の I T 企業へ転職したいという方もいらっしゃいましたので、こういったマッチングイベントは非常に効果的なのかなと思っております。

その中で、県全体で D X なりを進めていくときに、どうしても人材不足がよく周りから聞かれることが多いです。今後、1 年後ではなく、5 年後、10 年後を考えたときに、I T 教育事業にもっと予算を取っていくとか、そういった部分を考えているかどうかお聞きしたいなと思っておりました。

あとは、県内の情報サービス産業の売上が伸びているというところで、こういった県内の I T 企業は、若い人材を採用したいと考えていると思います。県立大学の方にお聞きすると、1 度は関東の方に出たいという方がいらっしゃる状況で、県内の I T 企業でも採用となった場合に、新卒ではなく中途採用を考えているところもあると思います。そうなったときに、ある程度知識のある方はどこも奪い合いになってしまうので、20 代、30 代、40 代ぐらいで I T に興味ある人たちを育てていけば、社会人経験があると、新卒とはまた違った部分で、企業に何か生み出してしていくことができるんじゃないかと思っております。

今年度、盛岡市のスパルタキャンプに参加した方で、65 歳ぐらいの方がいらっしゃいましたので、新卒だけではなく、20 代、30 代、40 代、はたまた 50 代の方たちがスキルを伸ばせるような事業を、今後も考えているのかをお聞きしたいなと思っておりました。

○ 小川産業振興室長

新卒以外の I T 人材育成というところでは、県庁で女性の活躍推進とも重ねまして、「いわて女性デジタル人材育成プロジェクト」をやっております。出産などで一旦職場を離れた方が、デジタル技術を身につけて社会復帰することなどを支援しているところです。

新卒ですと、東京の方が給料面も良いので、そちらを就職希望する方もいらっしゃいます。家族を持ったり、親の介護など、何らかの事情で岩手に戻ってきたいなというときに、岩手・盛岡にも I T 企業があったなという U ターンのかっかけにもするため、Y o u T u b e のオンデマンド配信で学生に県内の I T 企業を知っていただくという取組をしているところでございます。

将来的な I T 人材の育成というところでは、資料 2 の 7 ページにある、産官学金連携の「岩手もりおか学生デジタルアイデアコンテスト」を振興局も参画して実施しております。もともとは、大学生のアイデアコンテストとして実施されたものですが、最近は高校生のデジタル教育が進んでいることもあり、高校生の応募も多くなってきました。単なるコンテストではなく、コンテストが終わったあとに、審査員として参加した I T 企業の方と交流を持てる場を設定しておりますので、そういったところで将来の I T 人材の育成にも取り組んでいきたいと思っています。

○ 吉野座長

話の途中に出てきた「スパルタキャンプ」の講師をされているという事ですが、実際にやってみてどうなのでしょう。

○ 高橋構成員

実はもともと、県内のIT企業で働いていて、一度東京に行ったあとUターンで戻ってきました。私はスパルタキャンプの1期生で、受講してから起業したというところもあるので、起業に繋がったというあたりは、参加者の皆さんにお伝えすることができるかなというところですよ。

○ 吉野座長

キャンプは泊まりこみですか。

○ 高橋構成員

盛岡市さんの場合は宿泊施設が無いので通いになりますけれども、八幡平市の場合は泊まりこみになります。今年度2回目の講座は、マレーシアから来ている方もいらっしゃいますし、いろんなところから集まっている状況です。

○ 吉野座長

そのまま岩手に残る人も中にはいますか。

○ 高橋構成員

八幡平市は、大阪から参加した2名の方が、昨年度移住されています。

○ 谷本構成員

お聞きしたいことが3点ございます。

まず1点目が、資料2の5ページの「関係人口の創出」のところですよ。今回お示しいただいた資料で、関係人口を創出するにあたってのきっかけづくりについていろいろお示しいただいたかと思います。このきっかけづくりは非常に重要かとは思いますが、今後岩手に移住したい人が増えたとして、そのような方々に対していかに定着してもらうかというのが、今後重要になってくるのかなと思いますので、定着のための施策で何か考えがあれば教えていただきたいです。

といいますのは、先日とある学会に参加してきました、岐阜県のある町に外部から定住しようとする人たちを追いかけて、どういった人が定住して、どういった人が定住につながらなかったかという研究があったのですが、その中で、もともと住んでいた方々との関係性が大切だという結論がありました。岩手でもおそらく重要になってくることかと思うので、質問させていただきました。

2点目は資料の9ページにある、建設業の担い手をどう確保していくかというところで、大学生を対象とした出前授業の部分で、弊学部を取り上げていただきました。

私の職業柄、学生の話聞く機会もありますし、求人に来た企業さんの話聞く機会がありますが、どちらもインターンシップを非常に重視しているという印象を受けております。こちらについてはコメントになりますが、できればインターンの始めの方に前授業があると、出前授業で知識をつけた後、インターンシップで現地を見てもらえば理解が深まるということがあるかなと思いましたので、コメントとして1つ挙げさせていただきました。

最後は 15 ページになります。「高次都市機能の充実」というところで、杜の大橋の 4 車線化を取り上げていただいております。橋が 2 車線だったものが 4 車線になることは、非常に大きなインパクトであると思いますが、4 車線化になることによって、渋滞の長さや時間の短縮など、何か示せる効果がもしあれば教えていただきたいです。

○ 澤田副局長兼経営企画部長

関係人口創出事業については、今年度から始めている事業でございます。管内の各市町でも、就業体験や移住体験などの移住定住に向けた取組は様々行っておりますが、割と長めの期間で設定されるケースが多く、移住しようとする方にとっては、ハードルが高い場面もあるのかなというところで、こういった方々に対して、もっと気軽に参加できるメニューを用意したほうがいいのではないかとこのところからスタートしたものです。

当振興局で行っている事業については、短期間で興味・関心を持った管内市町でお試しで居住しながら働き、気に入ったとなれば、市町村で行っている既存事業におつなぎするという形で、少しずつハードルを下げながら、将来的な移住に結び付けるという取組で行っているところでございます。

この取組を行うにあたっては、管内市町や関係する方々との連携が欠かせないということになりますので、しっかりタグを組んで、少しでも多くの方に来ていただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

○ 小野寺局長

今までやってきた移住体験ツアーみたいなものは、ルートが決まっていることが結構多いですが、この事業の趣旨としては、その人の希望に沿ったオーダーメイドで作っていくというものです。

我々としては、市町村さんのニーズに基づいてやるので、最後に市町村さんにうまくつないでいくということが、この事業を進めていくためには重要なと考えております。

○ 戸来土木部長

大学生への出前授業の関係ですけれども、こちらについては、岩手大学理工学部の大学院 1 年生の学生を対象に、毎年実施しております。谷本構成員から御指摘のありましたとおり、出前授業をインターンシップの始めの方に行った方が効果的だということもありますので、こちらについては、今後検討していきたいと思っております。

杜の大橋の 4 車線化に関しては、来年度の供用開始を目指して工事を進めております。実際に 4 車線化になった場合は、当然渋滞は解消されることとなりますが、客観的なデータについては、開通後の交通量調査を実施した際に示させていただければと思います。

○ 佐々木構成員

クマの対策について、資料 2 の 13 ページに小学校等への出前授業についてありますが、出てきてもらいたくないクマを山に留めるための対策が、県の方であるのかということをまず 1 点お聞きしたいです。

あとは、15 ページの「歩道整備や歩行空間確保の推進」というところで、「上米内湯沢

線」、「渋民田頭線」とエリアがありますが、ここ以外にも予定している計画があるのであれば、そのエリアについて教えていただきたいと思っております。

また、視覚障がい者のための音が鳴る信号の設置率は、警察でしか把握していないものなのか、若しくは県でそういったところまで関与しないのか、その方向性をお伺いできたらと思います。障がいを持っている方たちにもやさしい街であって欲しいなと思うので、簡単なことかは分かりませんが、警察と連携を取るなりしながら、歩道の整備に関わって何か計画があれば教えていただきたいなと思ってお話をさせていただきました。

○ 日向保健福祉環境部長

今年度のクマは、最大級というような感じで出没件数が増えております。クマを寄せつけないためには、環境整備も併せて実施する必要があるまして、草刈りをしたり、柵を設けたりという必要があると思います。特に農業の方々は、クマだけではなく野生生物の被害も多いので、そういう対策も必要だと思いますし、身を守るためにも必要ということに今はなってきていると思います。

まだまだ対策途上ですし、冬季になると出没頭数は減っていくとは思いますが。来年の春に向けて、どういう取組が必要か整備をしている段階かと思っています。

○ 戸来土木部長

資料2の15ページの歩道の整備につきましては、現在の2路線をまず注力して進めていくということで、管内の市町からはたくさんの御要望をいただいておりますけれども、そちらについては今後の優先順位を踏まえて、順次対応していくことにしております。

信号機の関係につきましては、公安委員会の管轄になっておりまして、それぞれの場合について、公安委員会の方で設置していく形となっております

○ 吉野座長

クマの問題は、農業関係の方々も大変困っていると思っておりますけれども、立花さんは何か困っていることはありますか。

○ 立花構成員

クマはもともと出ますけれども、今年は本当に頻度が増してまして、小学校とか中学校の敷地に出るのが多くなっているという印象はありますし、イノシシとかは米や田んぼを荒らしたり、農作物の被害もあります。

今年は食べ物が無かったので特別だとは思いますが、1つの田んぼごとにクマがいるような状況だったそうです。

○ 吉野座長

駿河委員も困っていることはありますか。

○ 駿河構成員

今まで出ていない地域でしたので、そこでも結構出ているというところですよ。もし何か使い勝手のいい予算があるのであれば、それを市なりに落とし込んでもらって、地域と一

緒になってできればいいかなとは思っています。

○ 吉野座長

長沼さんのところは、動物も飼われているし、大変なんですか。

○ 長沼構成員

もともとクマが出るところなので、飼料用のデントコーンなんかはクマにやられることもあるので電気柵を巻いている状況です。あとは、牛舎の飼料を狙ってくるところも結構ありますので、そこは町から許可をいただいて、わなを仕掛けて対応していることもあるようです。

J Rの方とお話した際に、9月までよかったけれども、10月、11月と観光客が減っているという話になりました。いろいろ考えてみると、盛岡にクマが出没した報道が出たタイミングと一致しまして、意外と観光面でも影響があるのかなと思っておりました。

○ 小川産業振興室長

県では、全県的に観光施設や宿泊施設にヒアリングをしております、この秋口からキャンセルがあつたり、山あいのところだと、例年よりも秋の予約が少なくなっているというような状況はお聞きしています。露天風呂がある施設ではクマ対策をしているという状況でございます。

○ 坂田構成員

まず、資料1の29ページで、地縁的な活動参加への参加割合が示されていますが、県央地域は非常に低くなっております。先ほど谷本委員がおっしゃった、岐阜県のことを鑑みたときに、一番の懸念事項は、地域側の受け入れのマインドセットの方が重要なんじゃないかと私は感じています。来る人を増やしても受け入れ側の参加可能な枠組みが、低い割合であつたら、政策効果が限定的になるので、ここをどのように上げるかについて取り組む必要があるだろうと思います。

一見市町村がやるべきことに見えがちなのですが、市町村が行うと、ハレーションを起こす可能性が高い部分だと思います。ジェンダーギャップは企業だけの問題ではなく、地域コミュニティの方にも大きな課題がありますので、地域コミュニティそのもののアップデートのための取組を、広域な連携の中で、振興局としてやることがあってもいいのではないかなというのが1点です。

続きまして、資料2の1ページ目と2ページ目のところですけれども、ジェンダーギャップの取組はすごく重要だと思っています。3ページ目に新規事業として、子育て応援イベントとありますが、ここについてはもう少し内容を検討する必要があるんじゃないかなと思っておりまして、ぜひ文化芸術のコーディネーターを含めて活用いただきたいなと思っています。何かエビデンスをつけた形で、プログラムのオリジナリティを出すことが重要じゃないかなと思っていますので、そういった意味では、固有の文化や創造性みたいなことが大きく寄与されるのではないかなと思います。ぜひこの事業を開発されるときに、そういった視点で、オリジナリティある事業を作っていただくように記

載していただけるとありがたいなと思います。

同時に、同資料の5ページ目に関係人口の創出とありますけども、ぜひ「ウーフ」などの導入を検討していただきたいなと思っています。

最後に、自治体を横断した実効的な組織体がないと動かないと思いますので、PMOを作っていくことも視野に入れた取組をしていただければなというふうに思います。

○ 澤田副局長兼経営企画部長

地域コミュニティの関係でございますが、管内8市町で様々なコミュニティの取組をする中で、うまくいっていること、悩んでいること、様々お聞きすることがございます。取組によっては、身近な市町村で取り組んだ方が効果的な取組もあると思いますし、近いがゆえにやりにくいところもあるかと思います。そういったところについては、市町ともしっかり意見交換を行いながら、広域的な視点で取り組めるものについては、振興局あるいは県庁ともしっかり取り組みながら考えていきたいと思っています。

最後の「ウーフ」のような全国的な新しい取組については、しっかりと情報収集しながら、これから積極的に取り入れていくことができるように取り組んでいきたいと思っています。

○ 日向保健福祉環境部長

大変貴重な御意見だと思います。確かに、父親たる方が何かをした方がうまくいくであるとか、父親だからこそできることもあるかと思いますが、そういう点も踏まえながらこれから事業構成を検討していきたいと思っています。

○ 鈴木構成員

今回の資料を拝見して、一番大きな課題というのが、人口減からいろいろな課題が来ていると改めて感じました。まちづくり自体は、私たちの生活に密着しておりますので、この資料を見ても教育と絡んでいることがすごく多いなと思っております。

この資料の中で気になった点は、先ほど坂田委員からもありましたけれども、資料2の3ページの「ジェンダーギャップの解消の子育て応援イベント」のところで、開催場所などをいろいろ吟味していただきたいなと思っております。本当に届けたい人にどうやったら届くのか、効果的な周知をしていただければすごくいいイベントなのかなと思っていますし、お父さん、お母さんと区別をするのであれば、そこにどういった効果が生まれるのかが伝わると参加しやすいのかなと思います。

また、資料2の10ページにある地域おこし協力隊の定着率が低い原因をお聞きしたいなと思っておりますし、11ページの教育旅行については、先ほど長沼委員からもありましたけれども学校側へのヒアリングはすごく重要なかなと思います。

岩手県は歴史や文化、様々なコンテンツがありますので、そういったところをより深くしていただきたいなと思います。

最後に葛巻の高校の事例ですけれども、地域の学校というのはすごく大事だと思いますし、地方の県立高校の専門学科ほど、地域経済とつながっている取組をしています。未来の地方自治体の存続にも関わってくるのではないかなと思いますながら日々関わらせていただい

ておりますし、教育はまちづくりの根本というところで、圏域には国立大学もあるわけなので、縦割りだけではなく、横の連携もやっていただけるとありがたいなと思っております。

○ 日向保健福祉環境部長

3 ページの子育てイベント関係でございます。

おっしゃる通りでございます、必要な方に参加をしていただくためにはどうしたらいいかという工夫もしなければいけないと考えております。これから詰めていく段階ではございますけれども、御意見を参考に検討を進めていきたいと思っております。

○ 澤田副局長兼経営企画部長

地域おこし協力隊の定着率の関係ですけれども、はっきりとした理由は持ち合わせていませんが、考えられるものとしてはいくつかあると思います。1つは受け入れ側の方で、任期が終わった後どのような形で残ってもらうのかという将来像を意識した形で募集をかけているのかというところです。

また、任期中のフォローについても大事になるかなと思います。周囲の方々と話したいことが話せなかったり、孤立するようなケースもあるのではないかとということで、昨年度から地域おこし協力隊の方々の交流会を開催いたしまして、管内の各市町に赴任している協力隊の方々が集まって、自分が関わっているテーマごとに意見交換をする場を設けております。このような取組を継続して、横のつながりを作っていきたいと考えております。

最後に県立高校の関係でお話いただきましたが、県立高校は地域の関係人口構築や人口減少の取組の核となるような存在であると考えておりますので、局としても様々な手段をとって支援したいと思っております。

○ 青木構成員

クマの話ですが、当社は雫石町にありまして、そもそもクマが生息している地域ということもあるんですが、一方、盛岡市は中心部の様々なところにクマが出没している状況です。先ほどのお話の中で、川沿いの草刈を行ったり、クマが中心部にこないような対策をされているということですが、市内中心部に出没するクマに対しての具体的な対策についてお聞きしたいです。

また、市内中心部に出没しているクマが、どの辺から来ているクマなのかを把握しているのかということもお聞きしたいです。

資料にも書かれてますけども、狩猟者確保の対策内容についてもお伺いしたいなというふうに考えてます。

○ 日向保健福祉環境部長

中心部に出没するクマに対してどのように対策をしているかということですが、中心部に来るまでに色々なところを通ってきますので、そこを通りづらくするというのが1つの対策だと思いますし、そこに滞在しづらくすることも対策だと思います。市街地に電気柵を設置するということをしているわけではないですけれども、隠れ場所であ

ったり、寄せつけない対策を地道にしていくしかないというような事を内部で話をしているところですよ。

どこから来ているのかについては、川沿いを移動しているのだと思います。かなりの緊急事態でなければ銃猟は難しいと思いますので、今後は、わなの設置の円滑化だったり、見守りの強化というところが中心になるかなと思います。

国や県の緊急対策を踏まえて、現場でも防止と迅速化に努めていきたいと思っています。

○ 吉田構成員

クマ関係になってしまいますが、私の友人が、クマを威嚇する「ベアドッグ」の育成事業をしている、軽井沢のNPO法人「ピッキオ」というところで働いております。軽井沢は、2011年からクマの里山被害がないということで、クマの管理は人材が必要になると思うので、新しい取組があっても面白いのかなというのと、街の中に出てくるのを防ぐという意味では活用できるのではないかなと思っていました。

少子化対策というところで、来年が60年ぶりの丙午の年になりますので、昔のような産み控えが起きなければいいなというのを危惧しているところですし、中絶率が上がったたりする可能性があるのかなというふうに思っています。

助産師や看護師の復職支援は、看護協会の方でも活動している事業ではあるんですけども、ジェンダーギャップやプレコンセプションケアの分野は直結するところなので、潜在助産師や潜在看護師を復職できるようにして、資料2の3ページの子育て応援イベントに助産師や看護師を配置していただけると、私たちの働きがいもあるのかなというふうに思いました。ジェンダーギャップについては、子育ての世代に働きかけるよりも小学生や中学生を対象に学校で授業をしてもらえると、子育てが始まってからジェンダーギャップが解消されていきやすいと思います。県立大学の福島教授がやっている「ハッピーバース研究会」などを活用して、県内の小中学校で性教育の出前授業などをしていけるようにすれば解消されていきやすいかなと思いました。

今年から育児時短就業給付制度が始まったと思いますが、資料2の2ページにある「リトルもりおか」の人たちの意見はすごく大事で、岩手県では家事代行サービスがなく、産後ケアも混んでいるので、全員がうまく活用できていなかったりする実情があると思います。産後ケアを活用できなかった人たちは、家事代行のサービスが受けられるみたい転換していけると、すごく有効に産後ケアのサービスを活用できるかなと思いました。

時短勤務については、お母さんたちが時短勤務をしている人たちが多く、お父さんたちが時短勤務をするというのはあまり聞かないので、1ヶ月はお母さんが時短で、1ヶ月はお父さんが時短でみたいに、臨機応変に協力しながら育児をしていけると、子育て分野は解決できる問題がいっぱいあると思いました。

○ 日向保健福祉環境部長

軽井沢のベアドッグの取組は、テレビで拝見しました。多方面から何ができるかを考えていくことが重要だと思いますので、そういう意見を共有させていただきたいと思います。

ジェンダーギャップの関係で、プレコンセプションケアのお話もありました。県のホーム

ページでデジタルコンテンツを公開しておりますし、県内すべての高校2年生を対象に、リーフレットを配布する事業をしております。それに加えて、高校生向けのライフプラン設計講座の取組もしているところです。若い世代から自分の体のことだったり、将来設計だったりというところを知っていただくというのは非常に重要な視点ですので、これから続けていきたいと思います。

家事代行の関係で、産後ケアを受けられない方に何か必要ではないかという御意見があったかと思います。令和5年度から、市町村が事業主体の「いわて子育て応援在宅育児支援金」という制度を作りまして、第2子以降にはなりますが、子供1人当たり月額1万円を支給する事業などもあります。自分のライフステージに応じて使っていただくことが可能かなと思いますので、引き続き取組を進めていきたいと考えております。

産後ケアについては、市町村でも重要な柱の1つになってきておりまして、これからも持続可能な体制になるように、市町村と一緒に考えていきたいと思っています。

○ 小野寺局長

吉田委員の御意見すごく参考になりました。

家事代行ところで、来年度どのような方策をとればいいのかの具体策を、ワーキンググループで検討していきたいと思っております。今の御意見も参考にしながら、どのような形で支援していけばいいのか実証実験ができればいいなと思っていますし、吉田委員の意見を踏まえつつ考えて参りたいと思っています。

お母さんだけではなく、お父さんも時短勤務をするのはおっしゃる通りだと思います。その部分も含めて、どのような方策を打っていかなければいけないかというところを考えていきたいというふうに思ってます。

○ 吉野座長

追加で御意見があれば受け付けたいと思いますがいかがでしょうか。

○ 村松構成員

先ほどからクマ対策の話が出ていますけれども、個人が資格を取るのは、費用的にも非常に個人負担が重いと思う部分がありまして、企業としてどこまで関われるのか、どこまで教育できるのかというラインについて話し合う場面があってもいいかなと思うところがあります。

また、何かしらの法人的メリットがあれば、参画してみたいと思う会社だったり、協力したいという気持ちでいる会社もおそらくあるかなと思いますので、企業としてどのようなことができるのかというのを探れればと思っておりました。

○ 日向保健福祉環境部長

狩猟免許については、銃だけ限らず様々な種類がありますので、その方の状況や目的に合った形で、どういう種類のものをいつ頃取るのか決めていただくことになると思います。試験は年4回ぐらいやっているはずですし、事前に猟友会の講習を受けるというようなステップを踏んだりしているものもあります。

企業の方々にどのようにお願いをしていくのかという事もありますけれども、個人単位で銃を保管したり、講習会や訓練を受けたりということもありますので、そういうものに参加しやすいような休暇制度や勤務体系を作っていただくと、もしかすると参加しやすくなるのかなというふうに思いましたし、市町村によっては、狩猟免許取得のための補助を行っているところもあるようです。

○ 坂田構成員

資料2の5ページ目の滞在型関係人口の創出のところですけども、楽しさとかを感じられることが重要なと思いますので、受け入れ支援のところに、民俗芸能の体験とか地域の祭りや行事への参加などをぜひ入れていただきたいと思います。それと同時に、移住定住に関心がある方は、先ほどのクマ問題や子育てにもおそらく関心ある方だと思うので、ぜひ他の政策領域の課題についても、きちんとつながりを持てるようなコーディネート、あるいはそういったことにコミットできるということが意外と魅力に転換されると思うので、ぜひそういった部分を御検討いただきたいと思います。

もう1つは、ジェンダーギャップに関わる子育て応援支援のところですが、子育てで孤独になられている方は、子供に何らかの課題があったり、世界とうまくつながれない問題があるかなと思います。そのような経験をされている親御さんは、同じような経験をしている方とのつながりであったり、相互に学びあったりということを求めている方が多くいらっしゃるかなと思いますので、「イベント型」にするという手もありますが、子育てに関するコミュニティをつくる「プロデュース型」にするっていう手もあると思います。つまり、アクティブな大人たちを参加させて自走する形にしていっての方が、おそらく3年かけた計画が立てやすいのではないかなと思います。

ニッチな層に対して支援する動きがあるだけで、移住定住にもつながる話だと思いますので、政策領域を複数に横断して効果が出せる余地がいろいろあると思いますので、ぜひご検討いただきたいと思いますというふうに思いました。

○ 澤田副局長兼経営企画部長

関係人口のところで、受け入れ環境のお話でしたが、非常に参考になるお話を頂戴いたしました。葛巻高校の山村留学は、県外から多くの生徒さんが集まっていますけれども、大きな理由の1つとして、郷土芸能をやりたいということで入られる生徒さんが多いです。葛巻高校の郷土芸能部はかなり活発に活動を行っておりますけども、部員の多くが山村留学生という事で、多くの県外の方を岩手に引きつける魅力の1つではないかなと思ったところでございます。

当振興局の取組についても、葛巻の事例や坂田委員からのお話も踏まえながら、今後の参考にさせていただきたいと思います。

○ 日向保健福祉環境部長

坂田委員おっしゃる通り、ただ何年かイベントをやればよいということではなくて、目的の1つとして、我々がやり方を見せたり、あるいはその地域にあった形でどういう支援や居場所をつくっていくのかということをみんなで考えていくというのが、もう1つの目

標でございます。いろいろ考え方はあるかと思いますが、非常に良い御意見をいただいたと思いますので、今後の検討に活かさせていただきます。

○ 吉野座長

盛岡広域で意見交換をする利点を考えると、1つの地域に様々な企業や官公庁、学校がありますけれども、そのあたりの垣根をなるべく下げて、盛岡広域の問題を小分けしないで考えていく機会になればいいなと思っておりました。特に教育の問題については、若者の定着であるとか、生きづらさをどうやって解消していくかという事でいろいろ努力されていますけれども、学校現場でいいますと、県立、私立、さらに今は通信制の高校が盛岡に結構ありますので、それぞれの所管が違います。普段は同じ18歳だけれども、違うところで議論せざるをえないということもありますし、盛岡管内には他の地域に比べれば専門学校もかなりあるし、八幡平にはハロウ校という非常に独特な学校もあります。ですので、様々な設置主体を超えて、18歳あるいは若者の現場をどうやって盛岡なりに把握するかという時に、あまり垣根を作らず混乱しないような場を、県が少し音頭を取って今日みたいな感じでやっていただけると、ここで生活している方や学んでいる方々の意見を聞けるような場を今後とも作っていただけたらなと思って聞いておりました。

今日のように様々なところから委員が来ていただいておりますので、専門に特化した形にはならず、盛岡の特徴を皆さんで議論するっていうような機会ができていると思いますので、これをいろんなところに伸ばしていただければなと思っております。

(3) その他

○ 吉原特命参事兼企画推進課長

それでは、次第4のその他についてでございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは最後に、振興局長から御礼を申し上げます。

7 御礼

○ 小野寺局長

今日も長時間に渡り、御意見頂きまして大変ありがとうございました。

地元定着の方も頑張っていきたいと思いますが、今日は様々な御意見いただきました。クマの関係もたくさん頂戴しまして、本当に喫緊の課題ですけれども、緊急的にやるものと少し先を見てやるところと様々御意見あったと思いますので、本庁と共有しながら対応を取って参りたいと思います。

人口減少対策では、地域づくりですとか、教育の問題と密接に絡み合っているという御意見をたくさん頂戴しましたので、そういうところを意識しながら今後活かしていけるようにやって参りたいというふうに考えております。

本当に今日はありがとうございました。

8 閉会

○ 吉原特命参事兼企画推進課長

本日は、長時間に渡り誠にありがとうございました。なお、委員の皆様の任期でございますが、令和8年3月31日までとなっておりますことから、今年度の懇談会は、本日が最後の予定となっているところでございます。これまで本懇談会を通じまして、多くの貴重な御意見を頂戴いたしましたことに、改めて感謝申し上げたいと思います。

それでは以上をもちまして、令和7年度第2回県央広域振興圏経営懇談会を終了いたします。ありがとうございました。